

〔報告〕

報告：サマースクール「Keynesian Macroeconomics and European Economic Policies」*

阿部太郎[†]

概 要

2009年8月にベルリンで開催されたサマースクール「Keynesian Macroeconomics and European Economic Policies」についての報告。

はじめに

2009年8月2日から9日まで、Research Network Macroeconomics and Macroeconomic Policies(以下RNM)によってベルリンで開催されたサマースクールに参加した¹。

このサマースクールは、ポストケインズ派経済学を前面に打ち出している。ポストケインズ派は、貨幣経済という資本主義経済の特徴に目を向けながら、有効需要、所得分配、雇用、成長といった問題に取り組もうとする潮流であり、市場の自由化を志向する主流派には批判的である。そのような立場から、ここ数十年の主流派経済学に則った政策が各国で高い失業率や所得分配の悪化、金融危機をもたらしているという認識の下、代替的な理論を打ち出す必要性を訴えている。サマースクールの目的は、経済学を専攻する大学院生や若手研究者へ、ポストケインズ派経済学とヨーロッパの経済政策問題に関する導入教育を行うことである。

本稿は、このサマースクールの簡単な報告である。

本稿の構成は以下の通りである。まず1節で主催団体RNMについて紹介し、2節でサマースクールの様子について述べ、以上を踏まえて最後にまとめを行う。

* このサマースクールを、中谷武教授(流通科学大学)にご紹介いただきました。参加にあたっては、入試委員である伊澤俊泰教授(名古屋学院大学)、藤井信秀准教授(名古屋学院大学)にご配慮いただきました。また、本学職員の方々に渡航手続き、研究費の支出等に関してお世話になりました。以上の方々に感謝いたします。

† 名古屋学院大学 経済学部 准教授 email:taro-abe@ngu.ac.jp

1 筆者が現地で熱を出したため、十分な参加とはならず、残念ながら講義やパネルディスカッションの内容などの詳細に触れることはできない。

1. RNMについて

RNMは、1970年代以降のマクロ経済学界における新古典派やマネタリストなどの供給面を重視する経済学派の台頭、席捲がマクロ経済学の発展を妨げてきたとして、マクロ経済学の再生と真の発展を目指して、ドイツとオーストリアの経済学者を中心に1996年にヨーロッパで結成されたネットワークである²。RNMは、マクロ経済学に関する問題の研究、議論のプラットフォームになることを目的にしており、特に多元主義を掲げ、競合する理論的諸潮流間の交流を促進することを意図している。

RNMが重視している研究対象は次の通りである。

- ・安定化政策等に関するケインズ派マクロ経済理論
- ・有効需要に焦点を当てた失業問題
- ・所得分配
- ・内生的貨幣供給論を中心とした貨幣理論と政策問題
- ・マクロ経済学と金融部門の関係
- ・不均等発展などのヨーロッパの統合問題
- ・グローバリゼーション
- ・資本主義の多様性等の国際間比較
- ・マクロ経済的側面からの低開発問題
- ・環境問題のマクロ経済学

組織的には、労働に関する研究と学生支援を目的としたドイツの財団Hans Boeckler Foundation内の研究団体Macroeconomic Policy Instituteを基盤としている。主な活動は、年次大会を通じての研究者間の組織的な交流、出版の組織化、若手経済学者のサポートであり、その一環として2008年からサマースクールを開催している。したがって、サマースクールの参加費は大変安く抑えられており、1週間の食事と宿泊費を含めて250ユーロであった。なお、このRNMは会員制をとっておらず、開かれた組織であろうとしている。

2. サマースクールの様子

サマースクールの会場は、ドイツの代表的な産業別労働組合であるIGM（金属労組）の保養施設であり、参加者はその施設で寝泊まりし、講義や報告もそこで行われた。

初日にはポスターセッションがあり、参加者が各々の研究発表や自己紹介をしあった。ヨーロッパからの参加者が圧倒的に多かったが、中南米、北米、中東からの参加者も見られた。なお、東アジアからの参加者は筆者のみであった。RNMが主催しているだけあり、特にドイツ、オーストリアからの参加者が多く、ドイツ語の会話も到る所で耳にした。参加者のほとんどは博士課

2 本節作成にあたり Coordinating Committee of the RNM(2008)を参照した。



図1：ポスターセッションの様子



図2：参加者全員での記念撮影

程の院生であったが、修士課程の学生や官僚、労働組合や政党の職員、若手研究者も幾人か見られた。

午前中が講義、午後がそれに関するグループ討論と研究者による発表というのが1日の基本日程であった³。

以下講義タイトルを列記する。

- History and Method of Post-Keynesian Macroeconomics (Marc Lavoie, University of Ottawa)
- Money, Credit and Finance (Marc Lavoie, University of Ottawa)
- Distribution and Growth (Robert A. Bleacker, American University)

3 日程表については図3を参照のこと

Programme of the 2nd Summer School

	Sunday, 02 nd August	Monday, 3 rd August	Tuesday, 4 th August	Wednesday, 5 th August	Thursday, 6 th August	Friday, 7 th August	Saturday, 8 th August	
		Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast	8-9.30
		Money, Credit and Finance <i>Marc Lavoie</i> , University of Ottawa	Distribution & Growth <i>Robert A. Blecker</i> , American University, Washington DC	Financialisation – Post-Keynesian Perspectives <i>Eckhard Hein</i> , Berlin School of Economics	Academic papers by <i>Margit Schwaenigler</i> ("A General Financial Transaction Tax. Motives, Revenues, Feasibility and Effects") and <i>Trenor Evans</i> ("The 2002–2007 US Economic Expansion and the Limits of Finance-led Capitalism")	Labour Market <i>Engelbert Stockhammer</i> , Vienna University of Economics and Business Administration	Economic Policies in Europe <i>Philip Arestis</i> , University of Cambridge	9.30–12.30
11–13 Check in								
		Break	Break	Break	Break	Break	Break	
		Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	13–14
History and Method of Post-Keynesian Macroeconomics <i>Marc Lavoie</i> , University of Ottawa		Study group on Money, Credit and Finance & presentations of study groups	Study group on Distribution and Growth & presentations of study groups	Study group on Financialisation & presentations of study groups	At free disposal	Study group on Labour Market & presentations of study groups	Academic papers by <i>Torsten Niechojczyk</i> and <i>Truger</i> ("Fiscal Policy in the Hands of Mainstream Economists: The Case of the German Debt Brake") and <i>Philip Arestis</i> ("Monetary Policy in the UK")	14–16.30
		Break	Break	Break	Break	Break	Break	
Coming together & poster session		Academic paper by <i>Hansjörg Herr</i> ("Financial Liberalisation, Deregulated Labour Markets and the New Asset Market Driven Capitalism")	Academic papers by <i>Robert A. Blecker</i> ("Export-led Cumulative Causation or Balance-of-payments-constrained Growth? A Comparison of Alternative Post-Keynesian Approaches") and <i>Özlem Onaran</i> ("The Global Crisis and Labor")	17–19.30 Panel discussion on Financial Instability & Crisis <i>Marc Lavoie</i> , <i>Robert A. Blecker</i> , <i>Philip Arestis</i> , <i>Marica Frangakis</i> , and <i>Till van Treeck</i> (host)		Academic papers by <i>Camille Léger</i> ("Labor Demand in a Macroeconomic Model: Keynesian vs. Neo-classical Specifications") and <i>Stefan Ederer</i> ("Divergent Wage and Price Developments in the European Monetary Union")	Study group on Economic Policies in Europe & presentations of study groups	17–19.00
		18-22 Boat trip (including dinner)						
Barbecue			Dinner	Dinner	Dinner	Dinner	Barbecue & party	19–20

■ Lectures, ■ study groups and student presentations, ■ academic papers

Departure: Sunday

図 3：日程表



図4：グループ発表の様子



図5：受講生による劇の様子

- Financialisation-Post-Keynesian Perspectives (Eckhard Hein, Berlin School of Economics)
- Labour Market (Engelbert Stockhammer, Vienna University of Economics and Business Administration)
- Economic Policies in Europe (Philip Arestis, University of Cambridge)

ここではその詳細については触れないが、全体として主流派とポストケインジアンとの対比を通して問題を考えるという形式がとられていた。

なお、参加にあたって講義ごとに数本の論文を読むことが義務づけられており、それを前提に講義が行われていた⁴。

講義は非常にリラックスした雰囲気の中で行われ、講師が頻繁に冗談を飛ばし、受講者も気軽に質問を行っていた。一例を挙げると、Blecker教授が合理的期待の話をしている最中に施設の

4 論文リストを希望する方は、筆者宛にメールを送られたい。



図6：講師陣による劇の様子



図7：休憩中に Blecker 教授を囲んで

職員が飲み物を持ってきたのだが、それを見て教授曰く、「私はこのことを予想していました。これが合理的期待です。Danke Schoen!」といった感じである。

グループ討論では与えられた課題について議論を行うのだが、グループごとに戸外の日陰で車座になり活発な討論が行われていた。ここでの討論の内容を後に全体の集まりで発表し、質疑応答を行う。その中で、参加者同士が次第に親しくなっていった。

最後の発表では、マクロ経済政策に関する創作劇をグループごとに行ったが、これには講師陣も参加していた。

サマースクール全体の司会進行は若手研究者によって行われたが、発表者との真剣な討論以外では微塵も険しさを感ぜさせなかった。

以上から分かるように、このサマースクールの大きな特徴は、講師と受講者、受講者同士の距離が非常に近いということである。朝、昼、晩と、受講者と講師が同じ食堂で食を共にするのだが、そこでお目当ての講師を捕まえ、熱心に質問をする受講生が目についた。休憩時間中は、様々な



図8：夕食後のひと時（1）



図9：夕食後のひと時（2）

飲み物やケーキ、お菓子が用意され、そこで直前に行われた講義や発表について意見を交わすことができた。

また、夕食後の自由時間には、庭にしつらえてある机に集まり、お酒を飲みながら楽しい時を過ごしていた参加者も目立った。

1週間かなり密度の濃い学習が行われたが、その合間にボートトリップや半日の休日が設けら



図 10：ボートトリップの様子

れており、適度な休養もとれるような配慮がなされていた。

まとめ

体調不良のため一部の参加となってしまったが、ポストケインズ派の考え方に触れ、今後の研究について考えるためのよい機会になった。また、主流派とは異なる視点からマクロ経済学研究を行う友人を作ることができたのは何よりの収穫であった。

サマースクールについていくつか付け加えるとすれば、一つは環境問題に関する講義があってもよかったのではないかということである⁵。ただ今回は、世界的な金融危機を受けて、テーマの中心が金融不安定性にあったことを考えると仕方がないことであるとも言える。また、ポストケインズ派が主流派から無視され続けている大きな理由として Lucas 批判が挙げられるが、この点についてもう少し言及があった方がよかったのではないかとも思った。しかし、この点については、ポストケインズ派がより現実的な分析を行ってその有効性を示していけばよいということなのであろう。

つい最近発表された RNM(2010)は、ギリシャにおける財政危機問題についての政策提言であるが、この中に出てくる各国間の政策協調の問題などはサマースクールでのグループ討論で参加者が議論した課題そのものである。サマースクールでの学習が現実問題と直結していたことを改めて認識させられている。

5 最近、ポストケインズ派の視角から環境問題について論じている研究書 Holt, R. etc (2009) が出版されている。

参考文献

- [1]Coordinating Committee of the RNM(2008) “The Research Network Macroeconomics and Macroeconomic Policies”
in Echarid Hein, Torsten Niechoj, Peter Spahn and Achim Truger(eds.) Finance-led Capitalism? Metropolis-Verlag,
Marburg.
- [2]Holt, R. P. F, Pressman, S., and Spash, C. L. (eds) Post Keynesian and Ecological Economics. Edward Elgar 2009.
- [3]RNM(2010) “Open Letter to European Policymakers”
<http://www.social-europe.eu/2010/04/open-letter-to-european-policymakers-the-greek-crisis-is-a-european-crisis-and-needs-european-solutions/>